

愛知県半田市（国内 33 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 20 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 12.6 万羽）

発生家きん舎の構造：セミウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 8 段 4 列、通路 6 本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、丘陵地に位置しており、1 月 10、11 日に本病の発生が確認された今シーズン国内 23、24、27 例目（愛知県 4、5、6 例目）の発生農場がある養鶏団地から南に約 1.4km の場所に位置している。農場の周辺には収穫済みの水田や他の養鶏場が存在し、農場周囲は雑木林や竹林に囲まれていた。
- ② 当該農場は、セミウインドウレス鶏舎 2 棟、堆肥舎、集卵施設、事務所等で構成されていた。鶏舎はいずれも内部の隔壁で 2 分割されており（1 棟 2 鶏舎）、鶏舎内部は前後で繋がっていた。
- ③ 発生鶏舎はこのうち 1 鶏舎であり、直立 8 段ケージが 4 列設置され、グレーチングの床により 1 階と 2 階に分かれていた。

3 通報までの経緯

- ① 農場主によると、発生鶏舎（通報時 118 日齢）では約 7.1 万羽の採卵鶏が飼養されており、通常の死亡羽数は 1 日当たり平均 24 羽程度であるが、1 月 18 日の早朝の見回りの際、発生鶏舎 1 階の中央部分にある最上段のケージで、6 羽の鶏がまとまって死亡しているのが確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 調査時、殺処分作業が進んでいたため、発生鶏舎全体の異状鶏の分布状況を確認することができなかったが、農場主によると、発生ケージ以外では死亡は広がっておらず、他鶏舎についても異状は確認されなかったとのこと。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、農場主を含め従業員が 9 名おり、このうち 2 名が鶏舎内の飼養管理や除糞作業を行い、残りの 7 名は集卵作業に従事していたとのこと。
- ② 鶏舎管理を行う 2 名は、担当鶏舎は特に決まっていなかったとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 農場入口には、蓄圧式噴霧器が設置されており、飼料運搬車や集卵車等の外部車両が来場する際は、業者自身で車輪の消毒を行っていたとのこと。
- ② 従業員が農場に入場する際は、衛生管理区域外にある従業員専用の駐車場に車を止め、集卵施設脇の事務室でシャワーを浴び、農場専用の作業着、長靴を着用し、手指消毒を実施しているとのこと。
- ③ 飼料運搬業者や集卵業者等の外部業者が来場する際は、農場入口において自ら持参した長靴に交換し手指消毒の実施を依頼しているが、更衣については確認していないとのこと。
- ④ 従業員が鶏舎に入る際は、農場入口に設置された踏込消毒槽（逆性石鹼、毎日交換）で長靴の消毒を行い、鶏舎内用の長靴に履き替え、アルコールスプレーで手指消毒を実施しているとのこと。
- ⑤ 農場主によると、消石灰は降雨の後に不定期に散布していたとのこと。

- ⑥ 鶏舎はいずれも内部の隔壁により2分割されているが、鶏舎の前後で従業員の行き来は可能であった。鶏の飼養ロットは隔壁により分けられており、ロットごとにオールイン・オールアウトを行っているとのこと。
- ⑦ 給与水には、ろ過した未消毒の井戸水を利用しているとのこと。
- ⑧ 飼料タンクには蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に自動給餌されていた。
- ⑨ 発生鶏舎では、鶏舎前方（入口側）の入気口から入気し、鶏舎後方の換気扇から排気が行われていた。入気口には亀甲金網（一辺約1.5cm）が設置され、カーテンの開度により入気量の調整を行っているとのこと。また、排気用ファンにも金属製のフェンスが設置されていた。
- ⑩ 鶏舎前方からは集卵コンベアの出口があり、コンベア上部はカバーで覆われていた。コンベア下部には覆いはなかったが、コンベア接合部の隙間は1cm程度であった。また、農場主によると、集卵室側には、普段から小動物侵入防止のための板を設置しているとのことであったが、調査時には確認されなかった。
- ⑪ 除糞作業は鶏舎ごとに毎日実施し、除糞ベルトを稼働させて鶏舎外に糞を搬出しているとのこと。鶏舎内の除糞ピット開口部には蓋が設置されていた。
- ⑫ 農場主によると、死亡鶏は、昨年末までは堆肥舎内にある死体処理機で処理したものを鶏糞に混ぜていたが、1月以降は鶏舎内の一角に置いていたとのことであった。また、廃棄卵については、堆肥舎内の鶏糞に混ぜて処理していたとのこと。
- ⑬ 堆肥舎には防鳥ネットが設置されていたが、一部に隙間が確認され、複数のオオクロバエが確認された。
- ⑭ 農場主によると、養鶏団地において本病が発生して以降、普段以上に消毒を徹底し、鶏の健康観察に努めていたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によると、農場周辺ではネコ、カラス等を見かけるとのこと。調査時、農場内で複数のカラスを確認した。
- ② 農場主によると、鶏舎内のネズミ対策として殺鼠剤を設置しているとのこと。鶏舎内には目立った破損箇所等は確認されなかったが、防疫作業時に鶏舎内に設置した粘着シートにネズミがかかっていた他、鶏舎内で生きたネズミを確認した。

(以上)